

行政視察報告書

令和7年7月25日

長浜市議会議長 様

長浜市議会議員 伊藤喜久雄

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 行政視察
2. 視察期間 令和7年7月14日(月)～7月16日(水)
3. 視察場所及び目的
 - ①小樽市
小樽運河ライトアップによる観光地の魅力化について
 - ②北海道がんセンター
がん治療について
 - ③函館市縄文文化交流センター
博物館の展示と運営について
 - ④函館市役所
これからの観光について

4. 調査内容・感想等

■ 小樽市 (小樽運河ライトアップによる観光地の魅力化について)

小樽観光の人気スポットである小樽運河や歴史的建造物は、夜でも散策を楽しめるように小樽運河がライトアップされています。

ライトアップは日没から22時30分まで実施。運河沿いの散策路には63基のガス灯が設置され、昼間とは異なる異国情緒とノスタルジックな雰囲気を作り出しています。

端から端までゆっくり歩いて片道約20分。当日も大勢の外国人観光客の姿がありました。

小樽運河クルーズでは、「デイクルーズ」と「ナイトクルーズ」があり、

小樽運河と港を巡る約40分間のクルーズ体験ができ、キャプテンによる生ガイドが聞けます。

当日もクルーズ船の運航状況は完売で、韓国や中国の観光客が多く、運行会社では韓国語や中国語、英語が話せるスタッフを採用。ナイトクルーズの乗船料金は大人2千円。

外国人観光客（インバウンド）誘客に向け、ライトアップにあわせた官民一体となった魅力ある観光地づくりの成功事例と感じました。



■北海道がんセンター（がん治療について）

北海道がんセンターは、国立札幌病院が昭和43年に北海道の要請を受けて北海道地方がんセンターを併設され、平成16年には国立病院の独立行政法人化に伴い、国立病院機構北海道がんセンターとなる。平成21年2月からは、都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、道内がん診療の中核を担っている。

令和2年11月に新棟移転。PET-CT、手術ロボット、最新の放射線治療装置を備え、治験などによる新しい抗がん剤の開発協力を通してがん治療の最前線を目指している。また、がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム検査とそれに基づく治療を推進されている。

同センターは、緩和ケア内科や乳腺化、骨軟部腫瘍科など20診療科があり、放射線治療科では6名の専門医が治療にあたっておられる。

当日は、西尾正道北海道がんセンター名誉院長から、がんを取り巻く環境などについてお話（以下のとおり）を伺いました。

※日本人の死因の推移

日本人の平均寿命は 84 歳で、この 73 年間で実に平均寿命は 34 歳も延長し、世界のトップクラスの長寿国となった。1974 年春に CT (コンピューター断層撮影) が出現し、従来の放射線診断のレベルを劇的に押し上げ、医療情報もアナログからの世界からデジタルの世界に変える契機となり、それまで最も多い死因だった脳卒中に代わって 1981 年に悪性新生物 (がん) が死因のトップとなり、増え続けている。1970 年代前半は、がん患者数は 20 万人であったが、今では 100 万人以上となり、この 45 年間で 5 倍以上となっている。

東北大学の瀬木三雄教授 (公衆衛生学) は、戦後の核実験で長半減期核種の放射性物質が最終的には海に落ち、魚介類などを通じて放射線微粒子として人間の体内に取り込まれたため、間接的に食物連鎖の過程で人体に取り組み内部被曝したためとデータで示している。放射線の多種多様な健康被害の本態は「長寿命放射性元素体内取り込み症候群」とでもいえる病態なのである。コロナウイルスなどの感染症と異なり、放射性物質の低線量被曝による種々の症状は長時間かけて出現する。

一般にがん・高血圧・糖尿病などは「成人病」と称されていたが、1996 年に「生活習慣病」と改名された。この背景にあるものは医療費問題である。

成人になり病気になるのであれば、公助として医療費は国として対応することになるが、「生活習慣病」とすれば、病気になった時に「貴方の生活習慣が悪かったので病気になったのは自己責任。医療費は自助として自分で払ってください」というわけである。しかし、実際のほとんどの疾患は「生活環境病」なのである。生活環境が悪性腫瘍の発生にも関係しており、長寿命放射性元素体内取り込みも生活環境病に関与する大きな要因である。例えばトイレにウォッシュレットが普及したら、病院でも肛門科の看板がなくなった。生産性を 1 割上げるために女性ホルモンを餌に混ぜて飼育された米国の牛肉の消費量がこの 50 年間に 5 倍となれば、ホルモン関連性のがん (女性では乳がん・子宮体がん・卵巣がんなど) が 5 倍に増えた。食生活が生活環境病を作り出しているのである。農薬によって引き起こされると思われる子どもたちの発達障害なども環境病といえる。

※医師であることの喜びとは

がん患者さんが切らずに治れば、医者としてはやはり嬉しい。これまで患者さんのがんを治すために、いわゆるスタンダードから逸脱した治療を数えきれないほどしてきました。ステージⅢの喉頭がんといったら普通は全部手術ですが、喉をとられたら会話もできないし、一生台無しです。ですから僕は毎週診察して、放射線で治せるかもしれないとなれば放射線治療を行います。

今はコンピューターが進歩して、治療計画も全部コンピューター上でやる時代になりましたが、がん治療に限らず医療というのは基本的に視診、触診が基本です。見て、触って確かめることが重要なんです。

僕の出発点は食道がんで、1センチの太さのゴムチューブを患者さんに飲ませ、そのチューブの中にラジウムの線源を入れて留置して治療するやり方です。

当院の成績は、切らない放射線治療で世界一です。

■函館市縄文文化交流センター（博物館の展示と運営について）

函館市南茅部縄文遺跡群構想における縄文文化の普及啓発、調査研究、情報交流の中核に位置付けられ、平成23年10月1日に開館した登録博物館で、全国で唯一国宝を展示する道の駅「縄文ロマン南かやべ」としても注目されています。

施設は、敷地面積7140.65㎡で延床面積は1733.43㎡。駐車可能台数は35台、大型バス6台。

特色は、①建物全体が博物館法に基づく登録博物館、②国宝「中空土偶」をはじめ、各種指定文化財を常設展示、③道の駅「縄文ロマン南かやべ」を併設、④指定管理者制度による管理・運営（平成28年4月1日）、⑤体験学習や定期講座等の実施。

整備事業費は674,603千円。

入館者は、平成24年度が44,791人で、令和6年度は30,794人となっている。

平成23年度決算資料

科 目	款:教育費	項:社会教育費	目:文化財保護費	大事項:縄文文化交流センター 整備事業費	中事項:縄文文化交流センター 整備事業費	小事項:
-----	-------	---------	----------	-------------------------	-------------------------	------

1 予算額, 決算額

(単位:千円)

区 分	平成22年度 (12月補正後)	平成23年度	平成24年度
予 算 額	480,708	11,500	
決 算 額	480,708	10,349	
差	0	1,151	
特定財源	道補 24,100 起債 456,600	起債 4,800	
うち臨時的経費の項目と予算・決算額			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			

※ 平成24年度は決算見込額

2 主な事業内容

新築工事監理業務委託(期間:平成21年9月30日~平成23年3月17日)
 新築主体その他工事(工期:平成21年10月1日~平成23年3月17日)
 新築電気設備工事(工期:平成21年10月15日~平成23年3月17日)
 新築機械設備工事(工期:平成21年10月15日~平成23年3月17日)
 新築展示工事(工期:平成22年3月24日~平成23年3月17日。平成
 21年度は契約のみ。予算の執行は22年度。)
 初度調弁(平成23年度)

3 事業経費の内訳

(単位:円)

項 目	予算額	決算額	内 容
需用費		551,491	消耗品費
原材料費		148,810	
備品購入費	11,500,000	9,648,352	
合 計	11,500,000	10,348,653	1,151,347

4 その他

函館市縄文文化交流センター整備事業費

(単位：千円)

事業区分		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	合計	
		基本計画	基本計画 プロポーザル 用地測量 地質調査	基本設計 実施設計 用地購入等	建設工事	建設工事	初度調弁		
縄文文化交流センター	1 推進費	1 基本計画作成費	1,943					45,342	
		2 プロポーザル		1,172					
		3 不動産鑑定			962				
		4 用地地形測量		2,163					
		5 地質調査		1,617					
		6 基本設計			11,865				
		7 実施設計			25,620				
	2 建設工事費	1			104,773	474,827		579,600	
		建築			98,025	285,225		383,250	
		電気			189	76,356		76,545	
		機械			6,559	47,516		54,075	
		展示			0	65,730		65,730	
	3 工事監理委託費	1 工事監理				3,045	5,880		8,925
	4 用地購入	1 用地買収			30,100				30,100
5 その他	1 初度調弁, その他	27		259		1	10,349	10,636	
	計	1,970	4,952	68,806	107,818	480,708	10,349	674,603	
	道補助金(地域政策補助金)				5,400	24,100		29,500	
	起債(合併特例債・95%)			53,800	102,400	456,600	4,800	617,600	
	起債(行政改革推進債・5%)			2,800				2,800	
	一般財源	1,970	4,952	12,206	18	8	5,549	24,703	

21・22年度は継続費

縄文文化交流センター 入館者状況

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4月	—	3,582	2,313	1,100	1,209	1,292	1,239	1,258	1,644	249	1,339	2,593	2,132	2,165	1,882
5月	—	7,991	4,648	3,216	4,165	2,718	3,113	2,873	3,014	117	1,921	5,352	4,858	3,803	3,204
6月	—	5,580	3,493	2,606	2,176	1,782	2,244	1,893	1,983	701	2,357	4,323	3,317	3,489	3,137
7月	—	4,191	2,578	2,483	2,081	2,910	2,410	2,136	2,152	1,785	4,653	4,789	3,964	3,598	4,160
8月	—	7,678	4,885	4,410	3,686	3,007	3,626	3,734	4,089	3,551	5,004	5,311	4,775	5,224	
9月	—	5,774	3,427	2,719	2,657	2,523	2,607	1,956	2,448	4,813	2,625	5,138	4,000	3,930	
10月	16,186	4,814	2,940	2,422	2,037	2,377	1,841	1,458	1,874	3,011	5,241	4,385	3,355	3,494	
11月	7,626	2,126	1,429	1,268	1,231	976	968	1,221	1,276	2,413	3,815	2,302	2,071	2,204	
12月	1,562	410	452	165	407	365	278	308	502	296	1,300	681	815	614	
1月	1,219	521	459	455	262	560	640	440	550	248	523	423	566	596	
2月	692	882	501	643	438	231	188	506	452	254	0	235	445	470	
3月	1,007	1,242	743	1,021	869	947	641	969	418	869	1,060	1,404	1,253	1,207	
合計	28,292	44,791	27,868	22,508	21,218	19,688	19,795	18,752	20,402	18,307	29,838	36,936	31,551	30,794	12,383

開館からの累計入館者数 184,160 202,912 223,314 241,621 271,459 308,395 339,946 370,740 383,123

縄文文化交流センター開館 平成23年10月1日

令和2年3月 3日から3月19日まで休館(17日間)
 令和2年4月 18日から5月25日まで休館(38日間)
 令和4年2月 1日から2月27日まで休館(27日間)

■函館市役所（これからの観光について）

函館市観光基本計画と今後の取組・展望を聞く。

① 函館の現状と課題

人口減少により、人口は、321,385人（1982年）が236,515人（2024年）となり、産業の活力低下や担い手不足が懸念され、地域経済発展には、交流人口や関係人口の拡大が不可欠。2024年度に函館を訪れた観光客は約602万2千人で過去最高を記録（前年比13.9%増）で、2016年の新幹線開業を越える入込客数。

外国人の宿泊客数は56万8千人と過去最高を更新。今年度のクルーズ船寄港は2年連続で過去最多を更新する76回を予定。ランキングでは、台湾23万人、次いで中国16万3千人と続く。

② 観光基本計画 2024-2028

基本方針として、□質の高い観光により観光消費額を向上させる。

□観光の繁閑差を是正する

□函館観光を盛り上げる人を増やす

□観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め、観光への市民理解を促す

具体的な取組みとして、■観光入込客数増だけを目的とせず、観光客の満足度が高い良質な観光の提供

■「函館×名探偵コナン」特別イベントの開催

■中国人富裕層へむけた取組み

■インバウンド向け秋冬の誘客プロモーション

■ロケーション支援事業 など

③ 今後注力していきたい事業

これからを見据えた広域連携として、域内の連携（観光客の滞在日数の延長）と、域外の連携（より遠方から観光客をエリアに呼び込む）に取り組む

◇北海道新幹線札幌延伸を見据えた新たな広域連携

◇北海道・東北新幹線ルートを基軸に、在来線エリアを巻き込んだ

周遊ルート of 構築・定着で、交通結節点となる函館エリアをハブとした「大周遊エリアの確立」

◇函館山夜景魅力度向上事業・オーバーツーリズム抑止

◇宿泊税を活用した持続可能な観光地づくり

5. 行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

■小樽市 ～小樽運河ライトアップによる観光地の魅力化について

海外からの観光客受け入れのため、外国語通訳の配置や外国語の案内表示など積極的な取組みを感じました。行政と民間との連携が「小樽運河」という空間の魅力度アップにつながっており、今後の観光施策に活かしていきたいと考えています。

■北海道がんセンター ～がん治療について

がん治療が日々進化しており、PET-CT、手術ロボット、最新の放射線治療、治験などによる新しい抗がん剤の開発、がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム検査とそれに基づく治療など最新のがん治療の話を知ることができました。

国民の3人に2人ががんになると言われている今日、地域がん診療連携拠点病院としての市立長浜病院の機能充実に活かしていきたいと考えています。

■函館市縄文文化交流センター ～博物館の展示と運営について

建物全体が博物館法に基づく登録博物館として整備後、指定管理者制度による管理のもとで、展示と併せて体験学習・定期講座も運営されており、地域密着の博物館づくりと開館後の運営手法について、今後の施策に活かしていきたいと考えています。

■函館市 ～これからの観光について

観光客の滞在日数の延長と、より遠方からの観光客を呼び込むために、北海道新幹線札幌延伸を見据えた新たな広域連携はじめ、北海道・東北新幹線ルートを基軸に在来線エリアを巻き込んだ周遊ルートの構

築・定着で、交通結節点となる函館エリアをハブとした「大周遊エリアの確立」など、これからを見据えた取組みは大いに参考となり、今後の観光施策に活かしていきたいと考えています。